

大和まな生産の拡大

要約

平成24年度12月の大和高原大和まな部会の設立以来、大和の伝統野菜「大和まな」の組織的な生産が浸透。部会及び関係機関との連携、農業法人等への作付推進により、出荷量は本年度も増加に至った。また、これまでの大和まなの生産振興活動が評価され、本年度の奈良県農業賞を受賞。

現状(背景)と課題

- ・計画生産が出来ておらず、出荷量にバラつき。
- ・作付面積の拡大。
- ・需要が拡大しておらず、単価伸び悩み。



目標

- ・400ケース超 4ヶ月/年
- ・4,500ケース/年
- ・ハウス1作粗収益 84千円

活動内容

- ・対象者：JAならけん農産物生産・流通部会 蔬菜部会 大和高原大和まな部会
- ・月1回の大和まな振興にかかる打合せを通じ、現場の課題や情報を農業研究開発センター技術支援課・研究担当者と共有。
- ・大和野菜研究センターと共に講習会を開催し、栽培上の課題対策、出荷調整方法について周知。
- ・出荷市場を3度訪問。市況情報の入手、意見交換を行った。
- ・大和まなの認知度把握・向上を目的に、イベントで大和まなに関する展示やアンケートを実施。
- ・メディア取材やイベント出展、学校給食への出荷等を通じて、大和まなの認知度向上を図った。
- ・生産拡大のために、新規作付（個人・法人）への推進。

成果

- ・収穫後に下葉2枚除去の調整方法の周知により、黄化によるクレームが減少した。
- ・前年対比で年間出荷量が2割増加した。



出荷調整時の下葉除去の講習



うた産フェスタにてアンケートの実施



平成26年度奈良県農業賞 受賞

東部農林振興事務所農業普及課
担当：農業指導係 小島・木矢
「チャレンジ品目支援事業」
（「マーケティング・コスト削減に基づいた農業の振興」）

普及活動のポイント

- 農業法人や新規就農者への作付推進により、出荷量が増加。
- 市場訪問や市場担当者の講習会参加等により流通状況の把握と要望
- イベントでの紹介、取材対応により消費者の認知度向上。

対象の変化

- 新規作付者の確保により生産者が増加。農業法人の生産が安定し、出荷量を確保。

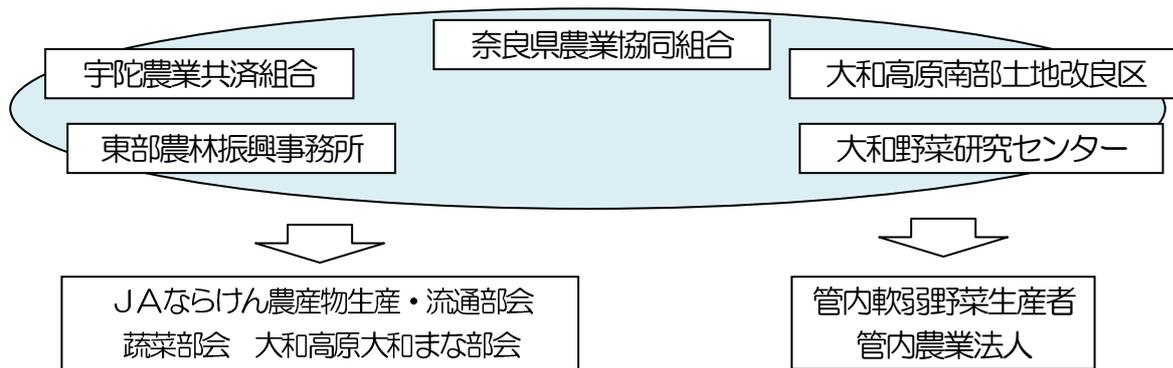
対象者からのコメント

- 生産量増加には価格安定が重要になるので、関係機関と連携して生産振興に取り組んでいく。
- 夏場の栽培や流通が安定するよう、品質向上の支援をお願いしたい。

これからの活動ビジョン

- 市場との連携を密にし情報・意見交換を通じて作付計画、出荷体制に反映。
- 給食への大和まなの提供拡大による、地場野菜としての定着。出荷量、単価の安定化。
- 部会でイベント等の活用により大和まなを紹介し、認知度向上、消費拡大のPRを展開。

活動体制



消費者アンケート結果（回答者：うだ産フェスタ（10月25日・26日開催）来場者100名）

大和まなを一度でも食べたことがある人は、約8割の人がリピートしたいとの回答が得られた。まだ食べたことのない人も約75%の人が興味がある（食べてみたい・食べても良い）との結果だった。

大和まなについて知りたいこととして「調理法」との回答が特に高く、振興を図るうえで、調理法を同時にPRすることも必要になると考えられる。

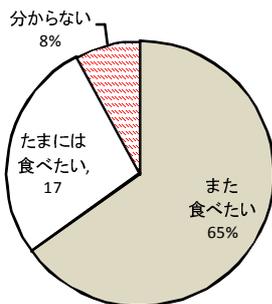


図1. 食べたことのある人

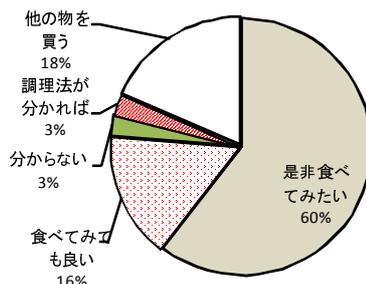


図2. 食べたことのない人

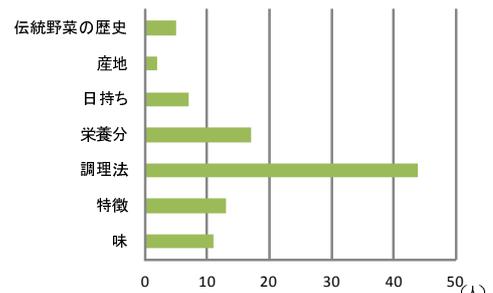


図3. 大和まなについて知りたいこと